

目 次

I 提案趣旨	1
II 小山市道徳教育拠点校	1
III 「特別の教科 道徳」教科化スケジュール	2
IV 研究主題設定の理由	2
1 学校の教育目標	
2 道徳教育の重点目標	
3 学校課題テーマ	
4 学校長の願い	
V 道徳教育の重点項目	3
VI 2年間の取組	3
1 教育計画	
2 環境整備 道徳コーナーの設置	
3 職員研修	
4 授業研究の方法	
5 授業改善	
VII 成果と課題	12
1 評価から	
2 教師の姿から	
3 生徒のアンケートから	
4 推進教師の役割	
5 教科化に向けて	

「特別の教科 道徳」への移行をめざした全校での取組 ～小山市道徳教育拠点校としての実践をとおして～

提案者 小山市立小山城南中学校教諭 大高 知子

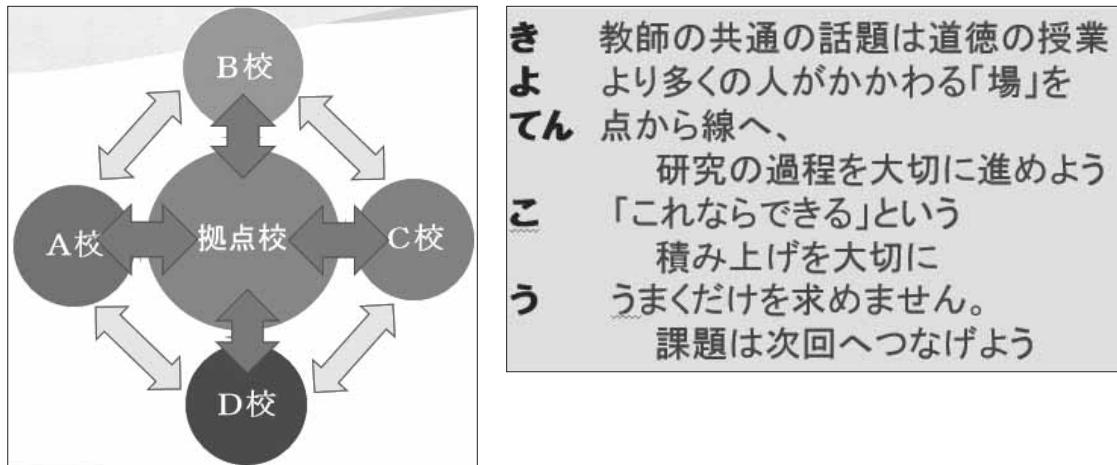
I 提案趣旨

小学校は平成30年度から、中学校は平成31年度から「特別の教科 道徳」が実施される。今、「考え、議論する道徳」に向けて、「主体的、対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」へ転換が求められている。

本校では、道徳の教科化を前に、平成27・28年度小山市教育委員会指定の道徳教育拠点校（第10期）に指定され、2年間研究をしてきた。

本校では、「特別の教科 道徳」への移行をめざし、5つの柱で、研究を行ってきた。その実践を紹介し、「特別の教科 道徳」への全校での取組を提案したい。

II 小山市道徳教育拠点校



道徳教育拠点校は、小山市全小・中学校の「道徳の時間」の充実のための拠点であり、拠点校を核に、小山市全職員で「道徳の時間」について研究し、充実を目指していくこうというものである。

III 「特別の教科 道徳」 教科化スケジュール

「特別の教科 道徳」 教科化スケジュール						
年度	平成26年度 (2014年)	平成27年度 ^{※1} (2015年)	平成28年度 (2016年)	平成29年度 (2017年)	平成30年度 (2018年)	平成31年度 (2019年)
小学校	学校教育法 施行規則 一部改正	平成27～29年度 移行期間 ^{※2} 編集 検定 採択	教科化スタート 教科書使用開始			
	学習指導要領 一部改正	平成27～30年度 移行期間 ^{※2} 編集 検定 採択	教科化スタート 教科書使用開始			
中学校						

※1 年度内に学習指導要領解説の発行と評価に係る検討を予定 ※2 一部改正学習指導要領の主旨・内容を踏まえた取組が可能

小学校は平成30年度から、中学校は平成31年度から教科化がスタートする。平成28～30年度（小学校は29年度）は移行期間となっており、一部改正学習指導要領の趣旨・内容を踏まえた取組が可能となっている。

IV 研究主題設定の理由

研究テーマ

自ら考え たくましく 思いやりのある生徒の育成
～共に学び 共に育つ集団を目指して～

1 学校の教育目標

- 自ら学び創造力のある生徒
- 誠実で思いやりのある生徒
- 健康で頑張る生徒
- 郷土を愛し、たくましく生きる生徒

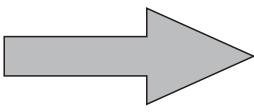
2 道徳教育の重点目標

- 生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する生徒を育成する。
- 法やきまりの意義を理解し、規律ある生活ができる生徒を育成する。
- より高い目標を目指し、着実にやりぬく強い意志を持つとともに、自己の所属する集団の質的向上に努める生徒を育成する。

3 学校課題テーマ

基礎力・思考力・学習意欲の向上を目指した指導のあり方
～主体的・創造的・協働的な学びを求めて～

4 学校長の願い

- 目指す学校像
 - 目指す生徒像
 - 目指す教師像
- 
- 生徒も教師も 共に学び、共に育つ

Ⅴ 道徳教育の重点項目

A 希望と勇気、 克己と強い意志 または 1-(2)	B 思いやり、感謝 または 2-(2)
C 遵法精神、公徳心 または 4-(1)	D 生命の尊さ または 3-(1)

VI 2年間の取組

1 教育計画

(1) 「特別の教科 道徳」への移行

① 全体計画の見直し

- ・目標を「道徳的実践力を育成する」から「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」と改める

② 「特別の教科 道徳」の内容に

- ・1～4の視点をA～Dの視点に

③ 内容項目 24項目 ⇒ 22項目へ

- ・従前の2-(2)と2-(4)を統合し、「思いやり、感謝」に
- ・従前の2-(3)と2-(4)を統合し、「友情、信頼」に
- ・従前の4-(4)と4-(7)を統合し、「よりよい学校生活、集団生活の充実」に
- ・従前の3-(2)を分割し、「自然愛護」「感動、畏敬の念」に

		平成28年度 学校行事と道徳22項目との関連																						
		A 主として自分自身に関すること					B 主として人との関わりに関するこ					C 主として家庭や社会との関わりに関するこ					D 主として生きやさしさ、尊厳についての関わりに関するこ							
(新)	(現)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
		1-(2)	1-(1)	1-(5)	1-(2)	1-(4)	2-(2) 2-(6)	2-(1)	2-(3)	2-(5)	4-(1)	4-(2)	4-(2)	4-(5)	4-(5)	4-(7)	4-(3)	4-(9)	4-(1)	4-(1)	4-(2)	4-(2)	4-(1)	
		自 主 ・ 自 律 ・ 自 由 ・ 責 任	尊 重 ・ 友 好 ・ 情 感	克 己 ・ 自 我 ・ 自 尊	真 理 ・ 公 正	思 い や り ・ 感 謝	信 任 ・ 信 頼	情 感 ・ 感 覺	相 互 信 任 ・ 信 頼	公 正 ・ 公 平 ・ 公 益 ・ 公 徳 心 を	社 会 参 与 ・ 社 会 主 義	尊 重 ・ 尊 敬 ・ 尊 嚴	家 庭 ・ 家 庭 生 活 の 充 実	土 地 ・ 土 地 保 育 ・ 土 地 使 用 ・ 土 地 保 全	よ り よ い い 生 活 の 充 実	生 き が 良 い 生 活 の 充 実	尊 重 ・ 尊 敬 ・ 尊 嚴							
		新任式					○	○								○								
		始業式	○	○	○																			
		入学式・対面式		○					○	○														
		会社計画・徹底診断	○	○																				
		新活動紹介						○	○								○							
		安全教育	○														○							
		運動開会式		○		○			○									○						
		授業発表	○						○															
4		地区春季大会 修学旅行(3年)	○						○								○	○	○				○	

(2) 新教科書対応 全体計画別葉作成

平成28年度から各教科の教科書が新しくなったことを踏まえ、別葉を作成し直した。また、「特別の教科 道徳」の内容項目にし、見やすいシンプルな計画にした。

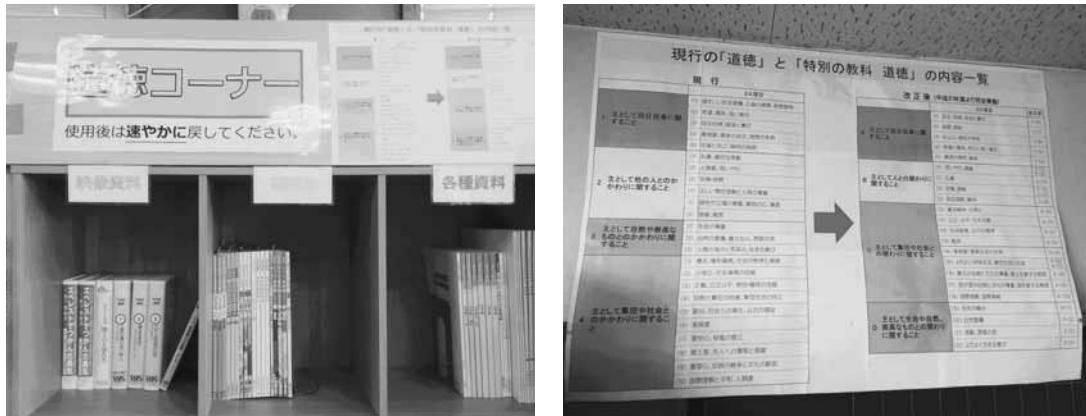
(3) 資料の精選

道徳部会で、「特別の教科 道徳」の内容項目に合わせた資料を選び、各学年の計画を資料と時期の面で見直した。本校で採用している副読本からだけでなく、「私たちの道徳」や郷土資料集、他社の副読本からも選んだ。

2 環境整備 道徳コーナーの設置

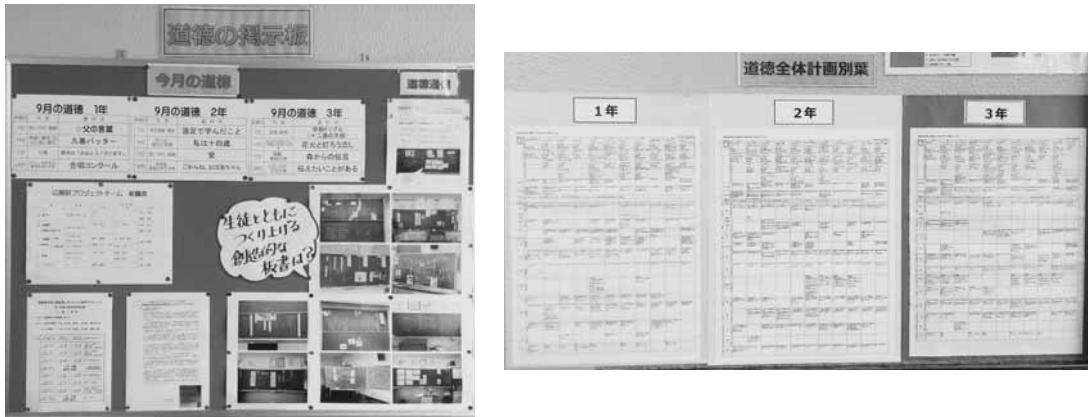
(1) 職員室

職員室に資料棚を設け、資料やDVDなどが活用できるようにした。また、壁面に内容項目一覧表を掲示し、道徳科へのスムーズな移行を促している。



(2) 印刷室

道徳コーナーとして掲示板を設置した。今月の道徳授業予定、研究・研修会の情報、参考となる板書の画像などを掲示している。また、全体計画別葉も掲示し、授業前に確認できるようにした。



授業研究会の振り返りとして作成したポスターを印刷機の前に一定期間掲示した。印刷している間に何気なく見て、授業を振り返ることができた。



(3) 教室

道徳で学んだ価値が積み重なるような掲示をした。生徒は今までの授業を振り返ることができ、担任は道徳授業の意識付けとなっている。



3 職員研修

(1) 道德通信

全校での道徳教育の啓発として、月1回、職員向けの道徳通信を発行している。教科化に向けた動き、授業に取り入れたいアイディア、授業の予定や振り返りなどを掲載しており、全職員が温度差なく道徳の授業を行うことを目的としている。

(2) 講 話

年1回、大学の先生に講話をお願ひした。

① 「教科化に向けたねらいとする価値に迫るための多様な指導法」

白鷗大学 中山 和彦先生

生徒の学びに寄り添った授業を展開することが大切であることを改めて確認できた。

② 「アクティブな道徳授業をつくる」

宇都宮大学 和井内良樹先生

授業の入口と出口を近づけることや、生徒が主体的に考える発問の工夫や協働的に取り組む手法などを通じて、アクティブラーニングの授業づくりのヒントをいただいた。

(3) 提案授業

平成27年度は3回、平成28年度は2回、大学の先生に提案授業をお願いした。

① 「二度と通らない旅人」 Dよりよく生きる喜び

白鷗大學 中山 和彥先生

全8ページという長い資料をどのように扱うか、また、評価をどのようにしていくのかをご提案いただいた。

② 「銀色のシャープペンシル」 Dよりよく生きる喜び

白鷗大学 中山 和彦先生

生徒の心の中にある価値を、じっくりと引き出していく導入や、生徒個々の価値観と資料についての発問を交互にする手法、意見を丁寧に受け止める姿などが参考になった。



③ 「手品師」 A自主、自律、自由と責任

深く自己を見つめることができるように工夫された発問や、中心部分を浮き立たせたり、違いや多様さを対比的、構造的に示したりする板書が大変勉強になった。

宇都宮大学 和井内良樹先生



④ 「三枚の銀貨」 B思いやり、感謝

宇都宮大学 和井内良樹先生

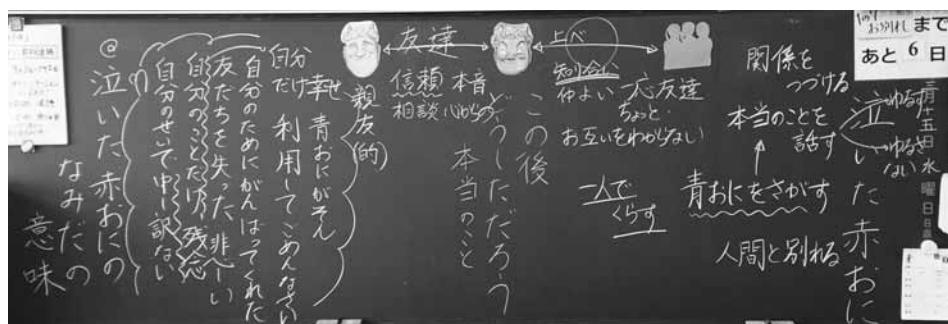
1時間を通して3人グループを活用するアクティブラーニング授業で、半年前に同じ学級で行った講義形式の授業とは、一変した生徒の姿が見られた。生徒が主体的、協働的に授業を展開し、「考え、議論する道徳」の形を勉強できた。



⑤ 「泣いた赤おに」 C友情、信頼

宇都宮大学 和井内良樹先生

赤おにの生き方と自分との関わりを追究することで、生徒自身が考える本当の友情の価値に迫る授業だった。授業後の振り返りでは、参加人数10名限定での協議を行い、日ごろの授業の悩みなどを話したり、和井内先生からアドバイスをいただいたりと、有意義な研修となった。



4 授業研究の方法

(1) 学年体制・プロジェクトチーム

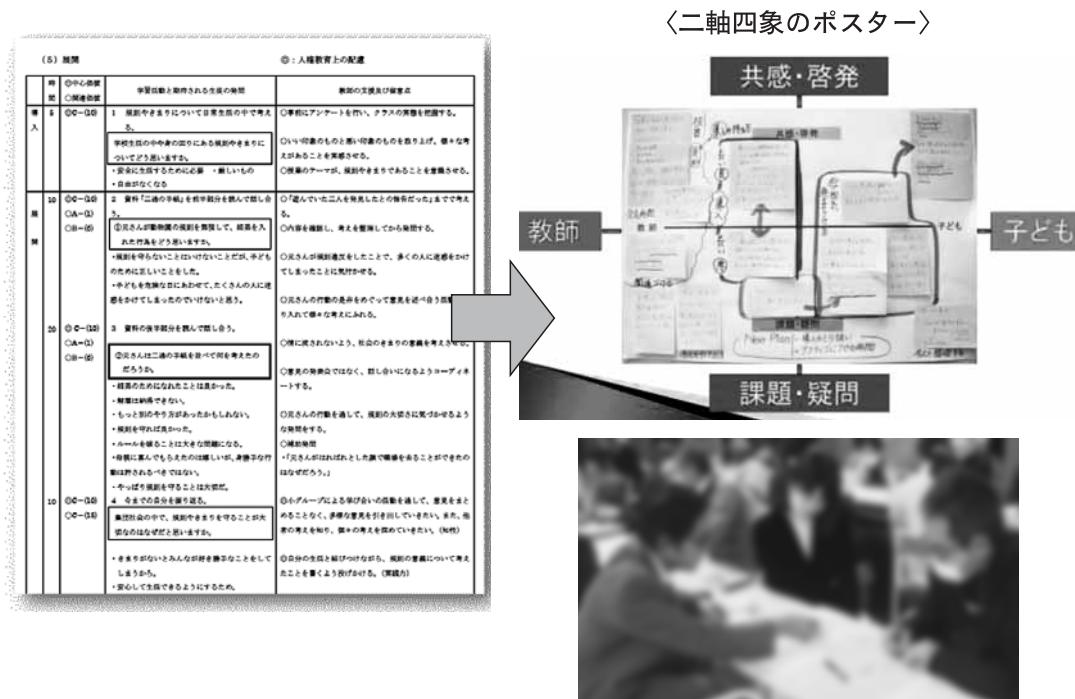
拠点校としての研究組織に加え、今年度は「公開授業プロジェクトチーム」を発足させた。学年内での役割を明確にし、チームとして授業づくりに関わることができた。授業者と参観者が、授業の振り返りを行う時間を設けたり、話し合いを日常的に行ったりした。

公開授業プロジェクトチーム 組織表		組合せ	1年	2年	3年
係	内容				
A 資料	資料開発、検討、提示	杉山			寺内、小島、後藤、金森
B 指導案 (主題設定の理由等)	主題設定の理由等作成	西原、杉山	川上、西牧	吉田、寺内 金森、小島	
C 指導案 (学習活動の検討 (評議活動))	a 内容 学習活動の検討 発表の工夫、検討	橋本、高橋	岸、若菜、黒田		小島、後藤
	b 活動形態 生徒の活発形態の工夫	鈴木、井口、大高	阿部、元木		
D 板書	創造的な板書の工夫 掲示等の所産	日置、生枝	佐藤、伊佐 酒寄、森田	寺内、竹久保 吉田	
E ワークシート	作成	藤間、健吾		部屋、後藤	



(2) 研究協議方法

従来は、指導案の展開を拡大した紙を用いて時系列に沿って意見を言い、付箋を貼っていく方法を取っていた。しかし、大人数のグループ協議では、なかなか意見を言えなかったり、話し合いが深まらなかったりしたため、二軸四象限ポスターでの研究協議（東京学芸大学附属世田谷小学校での研究協議方法）を試行した。利点は、少人数での協議ができること。また、子どもの姿をとおして授業を見たり振り返ったりする意識付けができることがある。



5 授業改善

(1) 教材・資料提示

- ① 本校生徒の実態に合わせて資料を直したり、登場人物の心情や行動を考えさせたい部分を削除したりするなど、一部改作して授業を行った。

いのち
生命の輝き

3年生 ver.

線部が本校三年生の実態に即して改作したという
線部は削除したところ

「ただいま。」

僕は、玄関のドアを開けると吐き捨てるようにそう言った。そして、訝もなく足音をぱたぱたと立てながら自分の部屋に入ると、全ての荷物を床に放り投げて、ソファに倒れ込んだ。

これが僕の、最近の帰宅後のパターンで、寝転んだまま深いため息をついた頃には、母が、「何なの、毎日毎日。」

と、イライラした声で階段を上がってくる。これをスタートの合図にして、母とのけんかが始まる。いつも、母は「おはあちゃんにはわからないんだよ」と、なんと言いたいのか、母の言葉合いをするよりも、母の心の動きを察する。母の心の動きを察する。母の心の動きを察する。

電話、部活の毎日、先月は運動会の練習者があり、そしてこの間は県大会。そして、明日は実力テストがあり、来週は期末テストだ。週三日は夜遅くまで塾がある。たまの休みに家でゴロゴロしていると、「勉強、勉強」と母にうるさく言われる。どうしてこんなに忙しいのか。毎日、時間半は部活で、部活動引退生であると一ヶ月しかないんだから、なんて言われても、もう僕の体はへとへとだ。それを補う精神力もないので、自分のために体を思いっきり使つてしまくなれるなんて、幸せなのにねえ。

いつも不機嫌そうに夕飯を食べている僕を見て、祖母が「ぶやいたこともあるが、おばあちゃんにはわからないんだよ」と、つい憎まれ口をきいてしまつたりするのだった。

いのち
生命の輝き

3年生 ver.

線部が本校三年生の実態に即して改作したという
線部は削除したところ

普通、病院といふところは、病気になった人を治す場所、正しく言うと病気を治すお手伝いをするところなのですが、私の勤める日本赤十字病院の看護師にはもう一つ大切な仕事があるのです。それは、亡くなつた人の体をキレイにして御家族にお返しするというものです。

僕たち一人一人の顔をゆづりと見ながら河野先生は、「こうおしゃつた」

もう一つの大切な仕事って何だろう。僕は、「亡くなつた人の体をキレイにして」という意味がわからない。しかし、河野先生の話を聞くにつれ、それがどういうことなのか次第にはつきりとしていった。それは僕の想像をはるかに超えた過酷な内容だった。

- ② 栃木県郷土資料集を使って授業をした際、資料中に登場する人物へのインタビューDVDを活用し、実話資料の力を生かしたアプローチをした。
- ③ 実話資料「自分らしさ—松井秀喜」「父の言葉」「高く遠い夢」などを扱う際には、著書や映像から、当時の状況や心情を詳しく説明したり、実際に映像を見せて推測したりする、ということを行った。

(2) 授業形態

授業形態は、前向きの一斉講義型が主流であったが、3人を基本とする小グループでの形態で、意見をシェアしたり議論したりすることをねらった。また、一斉討論型として△の字型を活用するなど、資料や授業の展開に合わせた柔軟なスタイルで行っている。

- ① 小グループ（3人T字・トライアングル）→シェア型・議論型



② コの字→一斉討論型



③ 話合い

小グループでの活動として、付箋を使ったグルーピングを試み、多様な意見に触れることを目指した。また、ネームカードや二色のカードを使用し、自分の立ち位置をはっきりとさせることにより、主体的な学びを促した。



〈付箋を使ったグルーピング〉

〈二色のカードによる意思決定〉

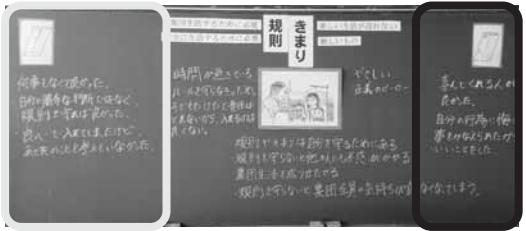
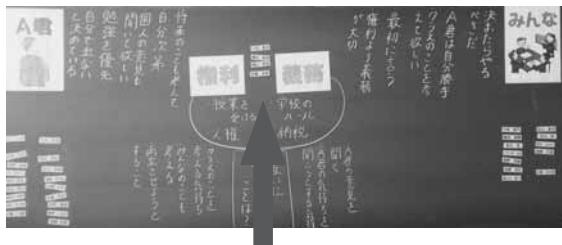
④ 板書

生徒の「共通のノート」として、板書の工夫をした。生徒の思考を整理し、深め、広げるために、効果的な板書は必要不可欠である。異なる立場を左右に分けて対比させたり、主題を中心に置くことで、授業が主題から外れないようにしたり、挿絵やキーワードを効果的に使用したりした。

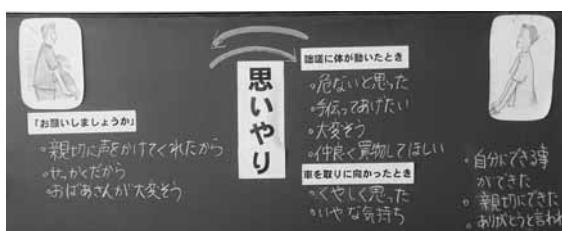
● 異なる立場を左右に分けて対比



● 主題をぶれさせない

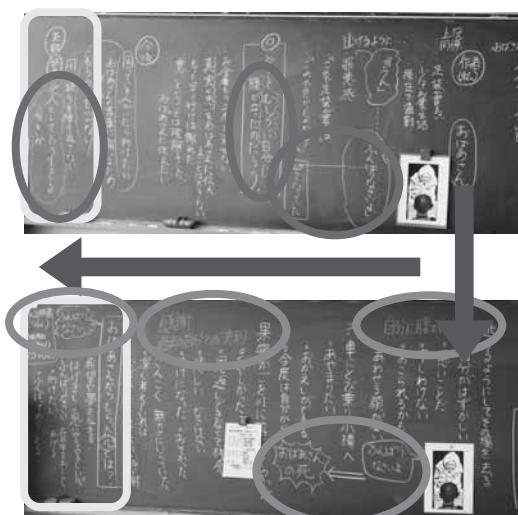


● 挿絵やキーワード



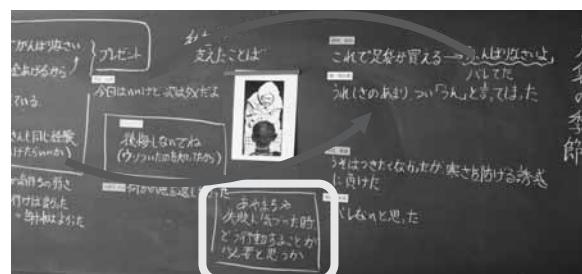
下の4つは、「足袋の季節」の板書である。左の2つは「縦書き」「右から左へ」の板書で、左端に高まった価値が書かれている。よく見られる板書スタイルではあるが、色チョークを効果的に使うことで、ポイントが際立っている。右上は、ネームカードを使用し、生徒の多様な考えを明示し、最後に本時のねらいを中心を持ってきている。右下は、主人公の2つの気持ちを対比させ、生徒の意見をキーワード化して書くことにより、最後の本時のねらいを目立つようにしている。このように、一定の方法に凝り固まることなく、生徒と共につくる創造的な板書となるように心掛けた。

● 色チョークの効果的な使用

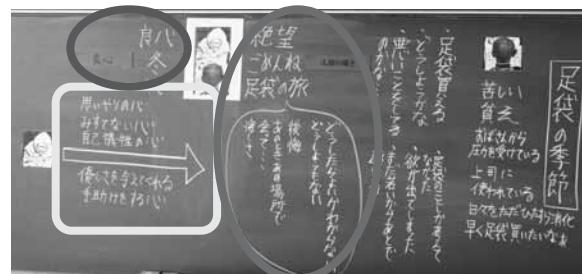


● 生徒の多様な考え

● 本時のねらいを目立たせる



● 2つの心情を対比



(5) ワークシート・道徳ノート

発問が記入されているワークシートからの脱却も図った。発問がすべて記入してあると、考えを深めることなく、穴埋め式のように自分の考えのみを書いてしまうことが危惧される。また、生徒の思考に沿って授業を展開していった場合、途中で発問が変わることも考えられるため、何か文章を入れる際にも、検討した上で必要最低限とすることにした。

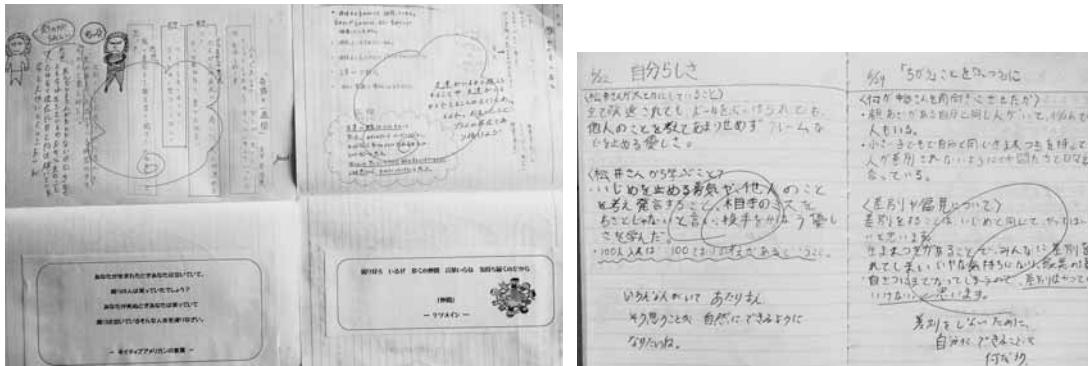
資料名「	」	月 日 ()
年 級 名前		
<div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div>		
<div style="border: 1px solid black; height: 10px; width: 100%;"></div>		
<div style="border: 1px solid black; height: 10px; width: 100%;"></div>		

道徳「カーテンの向こう」

組名前: _____

ヤコブの行動から、もし学ぶことがあるとしたら…

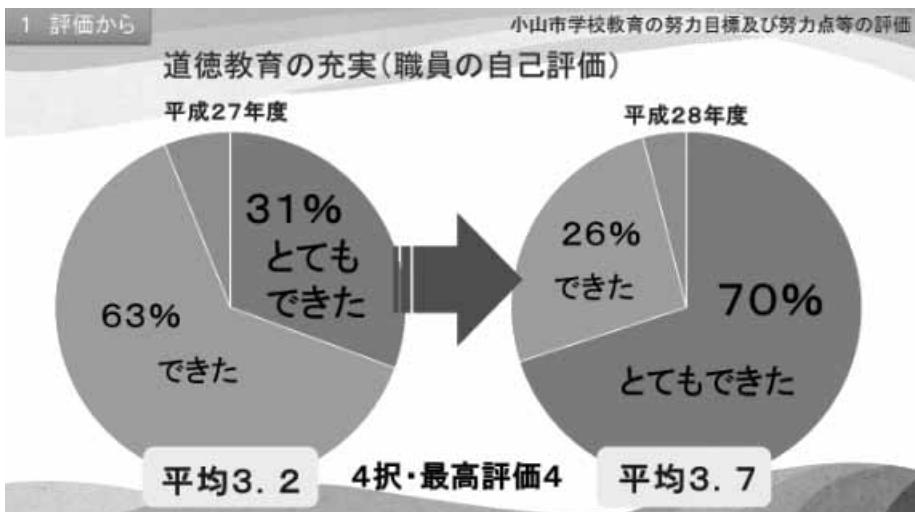
ワークシートと同じ発想から、道徳ノートを活用している学級もある。道徳ノートの利点は、生徒がいつでも授業を振り返ることができることである。また、生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取るポートフォリオとしての活用も期待できるため、評価に向けた取組にもなっている。



VII 成果と課題

1 評価から

小山市学校教育の努力目標 及び 努力点等の評価



- 全職員で積極的に取り組み、全校体制で主体的・協働的に取り組めた。
- 全クラスの担任が、ねらいを押さえて準備し、確実に授業を実施している。
- 普段から学年の教員同士が板書計画や授業後の感想を話し合う機会が増えた。
- 道徳教育に関する環境や研修が充実している。
- 授業を見合い、指導・助言をもらうことで、授業力が向上している。
 - ◆ 生徒に深く考えさせる発問が難しい。
 - ◆ 学年生徒全員が道徳課題を一緒に考えるような工夫をしたい。
 - ◆ 道徳を学ぶ意義を意識させたい。

2 教師の姿から

(1) ベテラン教師の姿

ベテランの先生方が、率先して道徳の授業を行い、定番のスタイルや個性的な板書を示してくれた。「卒業前の道徳を絶対にやりたい」と学年職員の前で語ってくれた時には、道徳授業を大切にする熱い思いを感じた。

(2) 中堅教師の役割

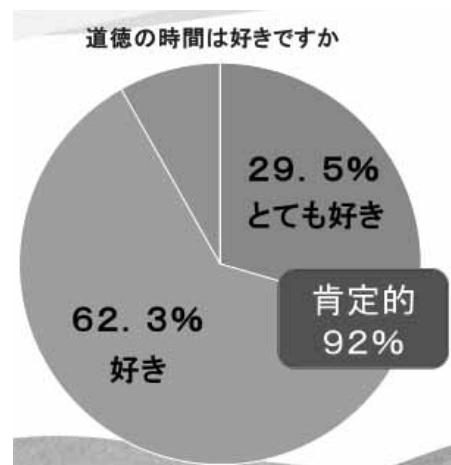
若手にアドバイスをしたり、積極的に授業を見せたりと、学年および学校の中核としての役割をしてきた。公開研の授業者である若手教師と、最後まで一緒に悩んで研究を進めたのも中堅教師であった。

(3) 若手教師の成長

この2年間で大きな成長をしたのは、間違いなく若手教師である。柔軟な考えを持ち、先輩教師からたくさんのこととを圧倒的なスピードで吸収し、自信を持って道徳の授業ができるようになってきている。今後、どの学校へ赴任しても、道徳のリーダーとして活躍できると思う。

3 生徒アンケートから [平成29年1月]

- ・みんなの考えをたくさん聞くことができる授業なので、大切に取り組みたい。
- ・班で話し合うと、自分の考えが広がり、いろいろな考え方をすることができる。
- ・道徳の授業をしていて、自分の意見をはっきりと言えるようになってよかったです。
- ・みんなの心について学ぶので、困ったことがあつたら、学んだことを思い出し、どうすればよかつたのか?と考えるようにならなかった。
- ・自分の将来の夢や今の生活についてなどをしっかりと見つめ直せる授業だから、とても役に立っている。



生徒の道徳的な実践意欲が順調に育っていることを感じる。

4 推進教師の役割

(1) 週1時間の道徳授業の確実な実施

週1時間の道徳が確実に実施されるように、掲示板や道徳通信等に、具体的な日にちと資料名を掲載した。また、担任の先生に余裕を持って準備してもらえるように、数日前の日報にも掲載するよう、心がけた。

(2) 魅力ある資料の収集

先生方が「ぜひやってみたい！」と思うような魅力ある資料の収集、提供をした。映像資料としては、NHK for Schoolの「ココロ部」や「道徳ドキュメント」がお勧めである。副読本に掲載されている資料は、東京学芸大学HPの総合的道徳教育プログラムから検索ができる。



(3) 板書（画像）の共有・蓄積

本校は、全学級道徳の時間を、水曜日の5時間目に設定している。水曜日は集会や会議の関係で清掃がないため、その利点を生かし、すぐに板書を消さずに残しておき、お互いの板書を見合うことを提案した。板書を見ることで、隣のクラスはどんな授業の展開だったのか、生徒からどんな考えが出たのかがわかるためである。

私は、自分の授業後の板書を毎回画像に残し、自分自身の授業の振り返りをするとともに、先生方にも見ていただいたり、道徳通信に掲載したりした。私の姿を見て、同じように自分や、ほかの先生の板書を撮りためる若い先生も増えてきた。

(4) 教材・展開などの蓄積

全学級同一資料で授業をした際に、挿絵や展開と一緒に板書計画を示したところ、「とてもやりやすかった」と好評だった。先生方の授業準備の手間を少なくするためにも、教材や展開案などの蓄積が重要だと感じた。

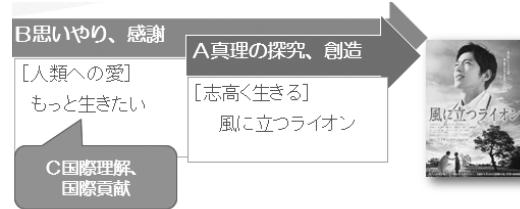
画像として残し、撮りためた板書の中で、一提案として示すことができそうなものは、指導案と一緒にデータ化し、誰でも簡単に取り出せるようにした。



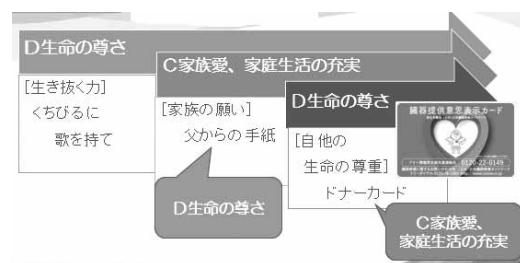
(5) 複数時間での取組

魅力ある資料の1つを、複数時間でのアプローチで提案した。単発になりがちな道徳の授業であるが、複数時間での取組を前提とすることによって、授業の積み重ねの大きさを実感できた。

① 自分の夢に向かってたくましく突き進んでいってほしいという願いを込めながら、そして生徒自身が理想の実現に向けてたゆまなく歩んでいこうという心情が育つように、卒業前の最後の道徳として実施。



② 3年生で行った、複数時間で「生命尊重」の価値に迫るアプローチ。まず、生命の尊さについての価値を深め、翌週は、尊い命を通した家族愛について考えさせた。そして深まった「生命尊重」と「家族愛」の両方の価値観を、資料「ドナーカード」を通してぶつけ合させた。



(6) 特色ある取組

「県民の日」と「心を育てる学校教育の週間」をつなげた事業を行った。6月の県民の日にちなみ、全学級が「郷土資料集」の同じ資料を使って授業をし、11月の「小山市心を育てる学校教育の日」に資料中の登場人物に実際に来ていただき、お話を来ていただくというものである。

平成27年度は「生命（いのち）の輝き」に看護師として登場した河野順子さんをお招きした。群馬県御巣鷹村での日航機墜落事故で、ご自身が看護活動をされた際の体験談をとおして、「いのちの大切さ」についてお話しいただいた。涙を流して聞き入る生徒の姿が印象的であった。

平成28年度は「十七才のキミへ」のシギー吉田さんをお招きした。逆境に打ち克ち、なおも強いパワーを送ってくださったシギーさんのお話から、生徒たちはたくさんの勇気をもらっていた。郷土資料集ならではの取組ができた。

- ① 「生命の輝き」→講話「いのちの大切さ」栃木県看護協会会長 河野順子さん
② 「十七才のキミへ」→講話「逆境に打ち克て」写真家・文筆家 シギー吉田さん



5 教科化に向けて

(1) 道徳授業の積み重ね

平成31年度からの教科化に向けて大切なことは、週1時間の道徳授業の積み重ねである。平成28年度、本校では3年生が32回、2年生が34回、1年生が35回の道徳授業を行った。これは、きちんと授業を行った回数である。1回限りの勝負の授業にきちんと向き合うことが、授業力向上につながり、生徒の道徳性の育成にもつながると思う。

(2) 道徳授業の本質

「考え、議論する道徳」への転換と言われている。そのため、とかく、その「方法論」に目が行きがちになってしまふ。しかし、道徳授業の本質を見失うことなく、授業する教師自身が、その価値について深い理解をした上で、授業をしていくことが大切である。

本校の先生方には、「授業前に、学習指導要領解説の、授業で扱う内容項目の部分を読みましょう」とお願いしている。週1回、1つの内容項目の部分を読んでいれば、1年間ではまちがいなく全部に目を通すことができる。学校ごとに設定されている重点項目に関しては、複数回授業があるので、年に2・3回読むことができるはずである。何のための道徳なのか、何のための1時間なのかが見えてくるはずである。

(3) 一番大切なこと

私たち中学校教師にとって一番大切なことは、まずは教師が道徳の時間を楽しむことである。中学校は教科担任制なので、教科によっては、学級での担任の教科の授業が週1回しかなかったり、男子または女子しか教科担任をしていなかったり、ということがある。どうやって生徒たちに考えさせるか、どんな風に悩み、自分の納得解を生み出していくのか。まずは教師がワクワク感を持って授業を行い、生徒とともに充実した道徳の1時間を創りだしていくこと。それは必ず、よりよい学級経営につながると確信している。

